見通しをもち、自発的に活動する子をめざして
―― 日常生活指導に視点をあてたS児への実践例 ――

野坂尚史

1．テーマ設定の理由

重度の知恵遅れの児童についてよく指摘されるのが、物事に対する関心の乏しさ、自発性のなさである。しかし、それらは、彼らが自分を取りまく環境を認知し、受け入れる能力に劣っているからというだけでなく、今までに物事に関心をもったり、自発的に活動した経験が乏しいから、そのような状態にあるとも考えられる。

私が研究の対象としたS児も例外ではなく、先に述べたような重度の知恵遅れの児童である。そこで私は、S児への実践の場を本児にとって今一番の課題である日常生活指導に置き、そこでS児の身辺処理能力を高めながら、自発的な活動を生みだす取り組みを実践しようと考えた。

2．対象児の実態

S児　昭和48年　10月　17日（生）　（小学部6年女児）

身長　155.8cm　　体重　73.4kg　（昭和60年4月現在）

2才の時、国立小子医大にて、精神運動機能発達遅延と診断される。その後、神戸子供病院、国立神戸医大で、筋力検査、脳波検査を受けたが、いずれも特に異常を認められず。4才半より、ハリ治療等を定期的に受け、本校小学部に入学する。

(1)　発達検査によるS児の実態

津守式乳幼児発達検査を実施した結果は、次の通りである。

	運動	探索・操作	社会	食事・排泄・生活習慣	言語・理解
発達年令	2:6	2:0	1:9	2:0	1:9

（表1）　津守式乳幼児発達検査にみるS児の発達年令（S60.4実施）

(2)　自然観察によるS児の実態

項目	S児の実態
ことば	状況語がほとんどである。場面の中で、「バケツを取って下さい。」「直してください。」などの要求語が言える。また、一人遊びの時などは、状況とは全く関係のない独り言を言って楽しんでいることが多い。
対人関係	今年度に入って、友達に対する関心が高まってきた。「ちゃん」と呼びかけて、強引にでも、ふり向かせようとしたり、自分から、話しかけて、返事をもらうまでしつこく同じことばをくり返すなど、積極的にかかわろうとするようになってきた。
遊び	一人遊びがほとんどである。水遊びが好きで、いつも水道の蛇口のそばにいる。
身辺処理	歯みがきにおいては、ブラッシングができないとともに、それが習慣化されていない。また、排泄については、トイレットペーパーをたたんで、おしりを拭くことができないのが現状である。また、ボタンとめ、衣服の脱ぎ、着衣の判断ができないなど、課題は多い。

（表2）　自然観察によるS児の実態

3. 取り組みの概要

(1) 取り組みの内容

給食後からの一連の課題を連鎖として、次のように組み、その課題が達成でき、かつ自発的に取り組めるようにと考えた。課題の並べ方、及び時間配分は次の通りである。

12:35　12:40　12:45　1:00　1:05　1:20　1:25　1:45　2:00　2:15

給食後の片づけ	移動	歯磨き	洗面	移動	排泄	移動	掃除	休憩	着がえ

（但し、月、木、金曜日は、着がえの前に学習が入り、着がえの時間がずれる）

（図1）　課題の配列及び時間配分

さらに上記の課題の中にも、それぞれ小さな項目を設け、それらが、連鎖として、スムーズに流れるよう配列してみた。（表5参照）

(2) 指導方針

毎回の取り組みが、S児の自発性や、身辺処理能力の定着度を評価する場であるとともに指導の場でもある。そのため、「待つ」という接し方を基本としながら、S児が明らかに注意散漫であったり、その課題ができないと判断した時のみ、指示、援助をしたり、部分的なドリル指導をすることとした。

(3) 観察及び評価の方法

二学期より、週に2回、S児の自発性、及び身辺処理能力の定着度をチェックすることとした。その方法として（表3）に示すような、3段階のカテゴリーを作り、それに基づいて記録をとるようにした。

自発性	身辺処理能力の定着度
(イ) 何の指示、援助もなしで、次の活動をする。	(イ) 一人で実施項目をマスターすることができる。
(ロ) 声かけだけの指示で、次の活動をする。	(ロ) 完全ではないがほぼその実施項目をマスターすることができる。
(ハ) 次の活動をするのに具体的な指示、援助を必要とする。	(ハ) まだ、その実施項目をマスターすることができない。

（表3）　自発性、身辺処理能力の定着度を評価するための3段階のカテゴリー

4. 実践結果

試行錯誤で実践を始め、軌道に乗り始めた5月～7月を第Ⅰ期、S児に見通しがつき始めた9月～10月を第Ⅱ期、自発的に行動し、かつ身辺処理能力も高まってきた11月～12月を第Ⅲ期として分け、その期における取り組みとS児の様子を記してみたい。

期	月	取り組み及びS児の様子
Ⅰ	5 6 7	何をするのにも示範、指示が必要であった。指示の入れすぎから、S児がパニック状態となることもしばしばだった。すべてを実施することはできないので、内容的にしぼり、できないものについては、パニックにならない程度に、ドリルをするという方法をとった。7月に入り、パニック減少。7月の時点ですべての課題、全項目について取り組めるようになった。言語指示のみで次の活動にとり組め始めた。

Ⅱ	9 〜 10	この期に入ると落ちついて、課題にとり組み始めた。各課題の終了を告げると、自分で「次は〜」といって自発的に行動するようになってきた。各課題における技能は、まだ完全ではないが、大まかな見通しは、もてるようになってきた。
Ⅲ	11 〜 12	この期に入ると、自発的な行動が増えてきた。各実施項目の実施順序も一定し、それらに要する時間も少なくなってきた。この期に及んでも、まだまだできない課題（実施項目）もあるが全体的にみて、技能面でもかなりの向上がみられた。精神的にも安定した期であった。

（表4）　期ごとの取り組み　及び　S児の様子

次にⅡ、Ⅲ期をさらに月ごとに分け、S児の自発性及び身辺処理能力の向上についてみてみたい。下の表は、3の(3)で掲げたカテゴリー分類に基づき、S児の自発性及び身辺処理能力の定着度を数量的に示したものである。

課題	実施項目	自発性				身辺処理能力の定着度			
		9月	10月	11月	12月	9月	10月	11月	12月
給食後の片づけ	ランチマットをもって立つ	63	83	80	100	83	86	100	100
	残飯を捨てる	63	71	60	80	67	57	63	85
	紙くずを捨てる	75	85	60	80	67	57	63	88
	おわん お皿を返す	50	71	80	100	50	43	85	88
	スプーン はしを返す	63	85	80	100	75	71	85	100
	ランチマットを返す	88	100	82	100	71	86	100	100
	おはしをもって帰る	75	85	82	100	86	100	100	100
	おはしをしまう	50	50	50	0	100	100	0	0
	スモックを脱ぐ	93	100	90	100	100	92	100	100
	スモックをたたむ	100	83	67	100	0	25	0	67
	スモックをひきだしに入れる	43	58	50	90	86	100	100	100
	洗面器をだす	71	100	100	90	100	67	100	100
歯磨き	洗面器を置く	43	33	40	80	79	67	60	100
	歯ブラシ、チューブを取りだす	64	83	50	70	93	67	100	100
	チューブのキャップをあける	93	92	83	100	93	100	92	100
	歯みがきをつける	86	100	100	100	86	92	90	90
	前歯を磨く	64	75	100	90	86	83	100	90
	奥歯を磨く	43	33	70	80	21	17	50	90
	歯ブラシを洗う	43	58	50	50	43	75	100	90
	コップに水を入れる	85	92	100	100	86	100	100	100
	うがいをする	64	50	80	60	92	75	90	100
	チューブのキャップをしめる	58	50	80	50	57	33	90	100
	歯ブラシ、チューブをしまう	67	58	80	90	67	67	80	100
洗面	水をためる	50	58	90	100	64	83	100	100
	両手で水をすくって洗う	50	50	50	50	29	42	92	100
	タオルで顔を拭く	29	33	25	60	57	100	100	100
	水を捨てる	71	92	58	90	100	83	92	100
排泄	スリッパをはく	67	80	100	100	100	100	100	100
	大便所の戸を閉める	0	60	50	90	100	80	100	80
	大便所の鍵をする	0	40	67	90	67	50	83	80
	ズボン、パンツをおろす	67	75	90	92	80	83	100	100
	トイレットペーパーを切る	33	67	80	70	33	83	80	80
	トイレットペーパーをたたむ	67	100	80	75	0	17	20	25
	トイレットペーパーで拭く	83	100	100	100	83	100	100	100
	ズボン パンツをあげる	66	83	90	90	75	80	86	100
	大便所の鍵をあける	50	67	90	92	86	100	100	100
	大便所の戸をあける	79	100	100	100	83	100	100	100
	スリッパを脱ぐ	100	100	100	100	83	100	100	100
掃除	バケツに水を入れる	38	75	67	70	100	75	100	90
	バケツをもって移動する	67	50	33	50	83	100	100	100
	雑巾をバケツに入れる	100	100	92	90	100	0	100	100
	バケツをもって教室に入る	80	50	60	50	100	100	100	100
	雑巾を洗い、しぼる	64	67	80	60	64	100	100	100
	雑巾がけをする	14	25	10	10	57	92	70	90
	バケツをもって移動	33	63	50	40	100	100	100	100
	雑巾を洗い、しぼる	36	67	92	50	86	100	92	100
	バケツを流しにしまう	50	50	70	60	80	83	80	100
	雑巾をしまう	36	33	50	50	50	50	83	90
着がえ	脱衣かごを取る	50	75	75	80	100	100	100	100
	ぞうきんにあがる	100	83	79	80	100	100	86	100
	シャツを脱ぐ	67	100	79	60	50	38	86	80
	ブイヤー、ズボンを脱ぐ	50	75	85	80	50	38	64	100
	上着を着る（ボタン、スナップ、ホック）	50	0	43	20	50	50	29	90
	上着を着る（ボタン、スナップ、ホックあり）	0	25	36	40	50	50	57	90
	スカート、ズボンをはく	0	0	43	50	33	38	50	70
	シャツをたたむ	75	0	100	100	0	50	0	0

ブルマー、ズボンをたたむ	※25	33	100	100	※0	33	0	※0
脱衣かごの中にしまう	50	83	77	60	100	100	100	100
脱衣かごをロッカーへ運ぶ	67	33	75	86	30	80	92	100

(表5) 各実施項目にみるS児の自発性及び身辺処理能力の定着度

注) 数値は合格率を示したものである。

$$合格率 = \frac{合格回数}{観察回数} \times 100$$

(但し、合格回数については(□)の場合を0.5として加算している。また観察回数が少なく、合格率の信頼度の低いものについては、※印をつけている。)

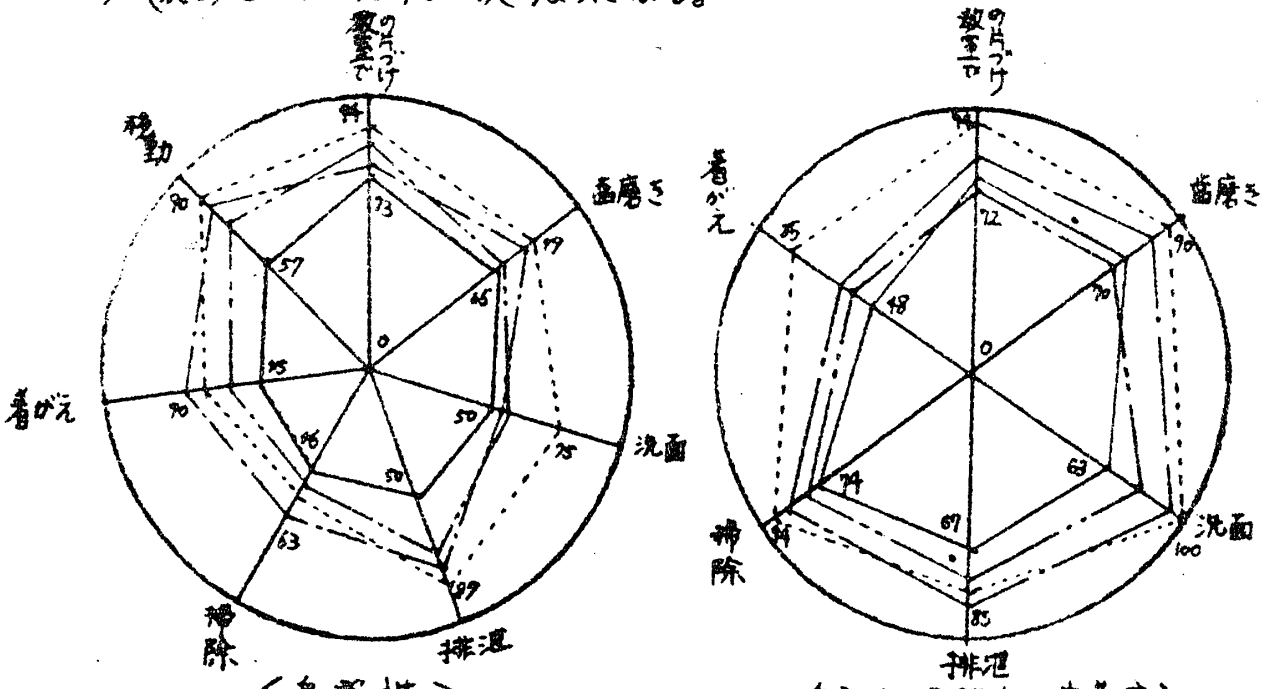
課題 / 月	給食後の片づけ		歯磨き		洗面		排泄		掃除		着がえ		場所移動	
	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b
9月	73	75	65	73	50	63	50	67	46	74	45	48	57	
10月	83	72	66	70	58	77	74	76	53	79	52	57	77	
11月	76	83	76	87	54	96	82	85	63	90	70	60	88	
12月	94	94	79	96	75	100	87	83	55	94	61	85	90	

注) a ……自発性
b ……身辺処理能力の定着度

数値は合格率を示したものである。

(表6) 各課題にみるS児の自発性及び身辺処理能力の定着度

さらに(表6)をグラフ化すると次のようになる。



<自発性>　　<身辺処理能力の定着度>

注) ———— 9月　　— · — 11月
— · · — 10月　　- - - - - - 12月

(グラフ1) 各課題にみるS児の自発性及び身辺処理能力の定着度の伸び

5. 考察及び今後の課題

(グラフ1)をみる限りにおいて、取り組みの成果はあったと考える。また、この実践を通して、身辺処理能力の向上と自発性は無関係なものではなく、身辺処理の技能の定着によって、その課題に取り組もうとする自発性はさらに伸びていくものだということを強く感じた。今後、難度の高い課題については、抽出したドリル指導を行い、さらに実践を続けていきたいと考える。